

慶成高等学校

令和5年度一般入学試験問題

# 国語

## 注意

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子を開かないでください。
- 2 問題は、1ページから9ページまであります。
- 3 解答はすべて解答用紙の所定の欄に記入してください。
- 4 解答用紙の※印の欄には、何も記入しないでください。
- 5 句読点は全て字数として数えてください。
- 6 試験時間は50分間です。
- 7 試験終了の合図で筆記用具を置き、解答用紙を裏返しにして、机の上に置いてください。
- 8 解答用紙のみ提出し、問題冊子は持ち帰ってください。

— 次の文章を読んで、後の各問に答えよ。

人気グループであるS.M.A.Pのヒット曲「世界に一つだけの花」に、次のような歌詞がある。

「ナンバー1にならなくてもいい。もともと特別なナンバー1。」

この歌詞に対しては、大きく二つの意見がある。

一つは、この歌詞のとおり、ナンバー1が大切という意見である。世の中は競争社会である。しかし、何もナンバー1にだけ価値があるわけではない。私たち一人ひとりには特別な個性ある存在なのだから、それで良いではないか。これは、もつともな意見である。

一方、別の意見もある。ナンバー1で良いと満足しては、努力する意味がなくなってしまう。世の中が競争社会だとすれば、やはりナンバー1を目指さなければ意味がないのではないか。これも、納得できる意見である。

ナンバー1で良いのか、**ア** ナンバー1を目指すべきなのか。あなたは、どちらの考えに賛同されるだろうか？

じつは、生物たちの世界は、この問いかけに対して、明確な答えを持っているのである。

じつは、生物の世界では、ナンバー1しか生きられないというのが鉄則である。これが「ガウゼの法則」と呼ばれるものである。**[1]**

旧ソビエトの生態学者ゲオルギー・ガウゼは、ゾウリムシとヒメゾウリムシという二種類のゾウリムシを一つの水槽でいっしょに飼う実験を行った。すると、水やエサが十分にあるにもかかわらず、最終的に一種類だけが生き残り、もう一種類のゾウリムシは駆逐されて、滅んでしまったのである。二種類のゾウリムシは、エサや生存場所を奪い合い、どちらかが滅ぶまで、**①** 激しく競い合う。そのため、共存することができないのである。**[1]**。

ナンバー1しか生きられない。これが自然界の厳しい掟である。**[2]**

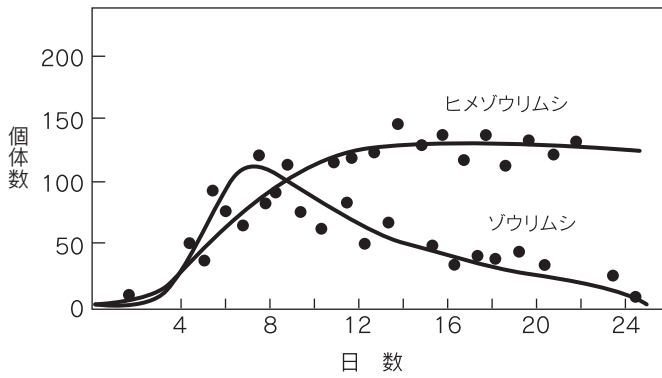


図1 同じ水槽でいっしょに飼った二種類のゾウリムシは、一種類だけが生き残り、もう一種類は駆逐されて滅んでしまった。

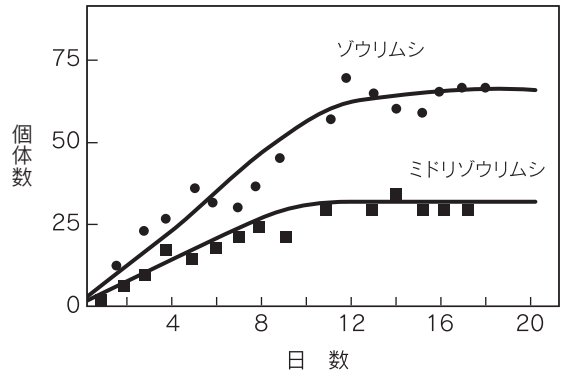


図2 棲む場所が異なれば、同じ水槽の中でも二種類のゾウリムシは共存できる。

競争社会とは言っても、人間社会の競争はずいぶんと緩やかなので、ナンバー2やナンバー3であっても、銀メダルや銅メダルで称えられる。しかし、厳しく競い合う自然界でナンバー2はあり得ない。ナンバー2は滅びゆく存在なのである。〔3〕

そう考えるのはまだ早い。じつは話はそんなに単純ではないのだ〔4〕。

自然界を見回せば、多種多様な生き物が共存して暮らしている。ナンバー1しか生きられないはずの自然界で、どのようにして多くの生物が存在しているのだろうか？〔5〕

じつは、ガウゼが行った実験には、続きがある。

今度はゾウリムシの種類を変えて、ゾウリムシとミドリゾウリムシで実験をしてみた。すると、驚くことに二種類のゾウリムシは一つの水槽の中で共存したのである。

どうして、最初の実験ではゾウリムシは共存できなかったのに、この実験では二種類のゾウリムシが共存しえたのだろうか。

じつは、ゾウリムシとミドリゾウリムシとは、【Ⅰ】と【Ⅱ】が異なるのである。ゾウリムシは、水槽の上の方にいて、浮いている大腸菌をエサにしている。これに対して、ミドリゾウリムシは水槽の底の方にいて、酵母菌をエサにしている。つまり、同じ水槽の中でも、棲んでいる世界が異なれば、競い合うこともなく共存することが可能なのである(図2)。

これが「棲み分け」と呼ばれるものである。

そうだとすれば、他の生物と激しく競争しあって、自分の居場所を確保するよりも、他の生物と争わないように、ずらしながら、居場所を探した方がよい。この「ずらす」ということが生物にとっては、重要な戦略になるのである。

すべての生物がナンバー1である

ナンバー1しか生きられない。これが揺るがすことのできない自然界の鉄則である。

イ

、自然界にはさまざまな生物がいる。

ウ

、それぞれの生物がそれぞれの居場所でナンバー1なのである。すべての生物がナン

バー1になれる場所を持っているのだ。このナンバー1になれる場所が、その生物のオンリー1なのである。

ナンバー1であることが大事なのか？ オンリー1であることが大事なのか？

自然界が出した答えはもうわかるだろう。すべての生物はナンバー1である。そして、<sup>②</sup>すべての生物がオンリー1なのである。

【エ】冒頭に紹介したSMAPの「世界に一つだけの花」の舞台は、「花屋の店先に並んだいろんな花」である。人間が世話をしてくれる花屋の花であるなら、ナンバー1でなくとも、オンリー1であればそれでいい。

しかし、自然界であれば、ナンバー1になれる場所を見出さなければ生存することはできない。オンリー1とは、自分が見出した自分の居場所のことなのである。

(稲垣栄洋『植物はなぜ動かないのか』による。一部改変)

問一 本文中の空欄【ア】と【エ】に入る語句として最も適切なものを、次の1～5からそれぞれ一つ選び、番号を書け。

- 1 もつとも
- 2 それとも
- 3 しかし
- 4 たとえば
- 5 つまり

問二 次の【 】の中の文章を入れる場所として最も適切なものを、本文中の〔1〕～〔5〕から選び、番号を書け。

やはり、オンリー1ではダメなのか。

問三 本文中の空欄【Ⅰ】と【Ⅱ】に入れるのに適切な語句を【Ⅰ】は四字、【Ⅱ】は二字で考えて書け。

問四 本文中に<sup>①</sup>激しく競い合うとあるが、それがわかるのは図1の何日目からか。数字で書け。

問五 本文中に<sup>②</sup>すべての生物がオンリー1なのであるとあるが、そう言えるのはなぜか。五十字以上、六十字以内でまとめて書け。ただし、**自然場所**という二つの語句を使うこと。

二 次は【文章】とそれに関する【資料】である。

(1) 次の【文章】を読んで、後の各問に答えよ。

① 客は利休ひとりである。彼の大きな眼は、秀吉の操作のすべてをじっと見守った。それも大きい口の厚い唇は、頬の片側に窪みをつくって閉じていた。利休は瞬きもしなかった。なにかの注意や指図がなされることもなかった。黒い十徳の膝には、大きいからだ、大きい眼口に釣りあって大きい皺のよった両手が、彫りつけられたようにのっている。むしろ、彼そのものが、釜の発する、なにか遠い山野からのような幽かなさわいだびびきの中に、一箇の木像のごとく、寂寞と厳かに見えた。

② 秀吉が一種えたいの知れない気おくれに捉えられるのは、この瞬間である。自分の輝きが急にきえ、影のうすい、見すばらしいものになった気がする。そこにただ黙って坐っているものから来る、抵抗しがたい威圧であった。

③ しかしたて終った茶を型通り利休のまえに運び、それが飲みほされ、茶碗がひかれ、後始末がすむといっしょに、秀吉は失われた權威をようやく取り戻す。利休はいち早く身をおこし、錦の小型のしとねを上座において、彼を迎える。秀吉はもうにこやかな笑顔である。戦塵からしばらく遠ざかっているためにひろい額は白く、やや張った頬の下部も健康そうな肉づきで、信長が渾名した『禿げ鼠』の面影はみじん残っていない。ただ昔ながらの、切れこみの深いふた皮瞼の眼尻に皺が見えても、物髪で、頭蓋の中央に、短かい棒のごとくに結びあげた髪の毛はまだ黒い。立身するほど身だしなみに気をつかい、派手好みのお洒落になった秀吉は、白髪は伸びないように抜かせるのである。それに小柄な中肉で年齢よりは活き活きとしていた。ことに法体で黒ずくめの利休にくらべると華美な装いも手伝い、一とまわりになお二つ上ちがうふたりは、老いたる伯父と甥くらいにしか見えかねないが、通い口に位置をかえた利休へ投げる秀吉の視線にも、その間柄に似たようなどこか甘えた親愛があった。

④ 秀吉はわざとなに気ないふうにきりだす。

「あんな工合でよかったかな」

⑤ 利休は大きな眼いっぱいに（ ）笑を浮べる。秀吉の点前を見守っていた顔つきとはがらりと変って、こんな時の利休はなかなか愛嬌者に見える。が、答えはほんの一言であった。

「まあ」

⑥ でない時でも「まあ、まあ」で、それ以上くさしもしない代り、賞めもしなかった。

⑦ 利休はつねにこれで通したのだから、どんな批評をされるかは、秀吉にも前もってわかっていたはずである。にもかかわらずやっぱりたずねて見ないではいられないのは、ほかの茶頭たちなら、津田宗及にしる、今井宗久にしる、惜しみなく浴びせるであろう賞讃はへつらいに過ぎないのを知っており、それ故にこそ、ほんのかりそめにも満足はいく言葉を、利休の口からききたいのであった。稽古ごとでは誰にもおきる子供っぽい気持も、秀吉の場合は、得がたいものほど無理にも得ようとする権威者の我意に裏づけられているので、「まあ」や「まあ、まあ」でかたづけられるのが口惜しかった。

⑧ つづいて秀吉が客になり、利休にたてさせる。もう一度学ぼうとするより、この命令にはいく分あら探しを隠されていくはない。利休のほうは知らぬふりではじめる。たった今まで秀吉が行った通りの仕方と手順で、道具もそのままなのはいうまでもない。ただ違うのは、釜でも、柄杓でも、茶碗でも、茶入でも、茶杓でも、ただその場所にあるのではなかった。一つ一つが利休の手の触れるのを待っており、彼が取りあげたり、湯をいれたり、すすいだり、拭いたりするというより、道具の方からそれぞれに動いて、運びをつくって行く。たえず淀みなく流れる水を、この水、と指し示すのはむずかしいように、どんな仕方でも、なにの後にながされたか、眼をこらしても、とんとわからない。利休はちょうど軽い小舟が水のまにまに浮き、流れるに似て、眼に見えない自然な作用に淡々と身をまかせているに過ぎず、秀吉がよく使う乾潮ひしおいろの分厚な茶碗で、それも彼の好みをこころえて大服にたてる茶さえ、ただの緑いろの液ではなく、ほの暖いいのちの香気にみちた飲みものが、茶碗の底からひとりでに膨れあがる感じであった。利休のこうした点前にくらぶれば、他の茶頭たちは真似ごとをしているに近かった。秀吉のひそかな監視は、しだいに純粹な感嘆、満足にかわって行く。これほどの男を勝手にできる誇りが、あらたに強まるのもこんな時である。

(野上弥生子『秀吉と利休』による。一部変更)

(注) 十徳…室町・江戸時代の衣服の一種。 釜…茶道で用いる湯を沸かす道具。 寂漠…ひっそりとした様子。 しとね…敷物。ふとん。

戦塵…戦場に立つちりやほこり。 ふた皮臉…ふたえまぶた。 惣髪…髪全体を伸ばして後ろでたばねる髪型。 法体…出家した僧侶の姿。

点前…茶の湯の作法。 くさす…悪く言う。けなす。 茶頭…茶事をつかさどるかしら。 へつらい…お世辞。

問一 本文中に( ) 笑とあるが、「ほほえむ」という意味の二字熟語になるように( ) に当てはまる漢字を楷書で書け。

問二 本文中の〓線を施したa、dの「彼」のうち、指し示す人物が異なるものを一つ選び、記号で書け。また、選んだ記号の人物が誰を指すのかを本文中から探し、そのまま抜き出して書け。

問三 次の   の中は、秀吉はわざとなに気ないふうにきりだすについて、その時の秀吉の心情を整理したものである。次の文章の ア、

ウ に入る内容を本文中から探し、ア に入る内容を、十字以内でまとめて書け。

秀吉は利休からア をもらいたいが、利休が秀吉の権威に、イ ことも知っている。しかし、秀吉は、ウ という甘い考えを抱えており、それを知られたくないのである。

問四 本文中にこの命令にはいく分あら探しは隠されていなくはないとあるが、この理由を三十字以内でまとめて書け。ただし、欠点という語句を

必ず使うこと。

問五 本文の内容を説明した文章として最も適当なものを次の1～4から一つ選び、番号を書け。

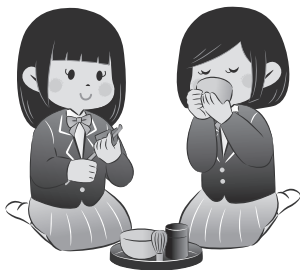
- 1 ①、②は利休がお茶を点ている場面であり、それを受けて③では両者の装いについても描かれている。
- 2 ④秀吉は利休からの評価を尋ね、⑤の利休の評価に満足する。
- 3 ⑤の利休の評価は秀吉に対して茶人として真剣に接しようとしていることがわかる。
- 4 ⑧では利休が秀吉を称賛してくれることを誇りに思っている秀吉の姿が描かれている。

(2) 次は、【文章】を読んで、千利休に興味を持った山田さんが調べた【資料】である。これを読んで、後の各問に答えよ。

【資料】

千利休が完成させた「わび茶」  
珠光がわび茶の創始であり、利休はわび茶を完成させた人物だといわれています。わび茶は身分秩序を持ち込まないという考えがあり、お茶を点てる人も、飲む人も一室で同じ高さの畳の上に座り、茶が点てられて飲むというものです。身分の上下があったとしても、互いに敬うべきものであるという考えを持っていたことが顕著です。また、四字熟語の「一期一会」は茶道から発生した言葉といわれています。

# 一期一会



問一 【資料】を読むことで、【文章】のどのような理由が分かるか。次の1～4から一つ選び、番号で書け。

1 「秀吉は失われた威厳をようやく取り戻す」ことができたとあるが秀吉がそのように感じた理由。  
2 「法体で黒づくめの利休」とあるが、利休の服装の理由。

3 「利休のほうは知らぬふりではじめるとあるが、利休がそのような態度を取った理由。

4 利休が「一箇の木像のごとく、寂寞と厳かに見えた」理由。

問二 【資料】の顕著の漢字の読みを、平仮名で書け。

問三 【資料】の創始の——線を施した漢字を楷書で書いたときの総画数と、次の1～4の——線を施した部分に、適切な漢字をあてて楷書で書いた

ときの総画数が同じものを、1～4から一つ選び番号で書け。

1 服<sub>二</sub>そ<sub>一</sub>うを整える。

2 車<sub>二</sub>そ<sub>一</sub>うから外を眺める。

3 そう<sub>二</sub>縦<sub>一</sub>室に座る。

4 そう<sub>二</sub>像<sub>一</sub>を超えた作品。

問四 「消滅」の対義語を、【資料】の中から探し、そのまま抜き出して書け。

問五 【資料】の中で用いられている次の文字の部首に表れている行書の特徴として最も適当なものを、次の1～4から一つ選び、番号を書け。

# 期

1 点画の省略

2 点画の変化

3 筆順の変化

4 点画の連続



三 次の文章を読んで、後の各問に答えよ。

鎌倉中書王にて御鞫ありけるに雨降りて後、未だ庭の乾かざりければ、いかげんと沙汰ありけるに、佐々木隠岐入道、鋸の屑を車に積み、おほく奉りたりければ、一庭に敷かれて、泥土のわづらひなかりけり。「取り溜めけん用意、ありがたし」と人感じ合へりけり。

この事のある者の語り出でたりしに、吉田中納言の、「乾き砂子の用意やはなかりける」とのたまひたりしかば、恥ずかしかりき。いみじと思ひける鋸の屑、いやしく、異様のことなり。庭の儀を奉行する人、乾き砂子を設くるは、故実なりとぞ。

(注) 鎌倉中書王にて…後嵯峨天皇の皇子、宗尊親王のお住まいで。 鞫…蹴鞫。鞫を蹴って地面におとさないようにする貴族の遊戯。

沙汰ありける…相談があった。 奉り…差し上げ。 のたまひたりしか…おっしゃた。 庭の儀を奉行する…庭の整備を担当する。 故実…昔からの習慣。

(兼好『徒然草』による)

問一 本文中のおほくを現代仮名遣いに直し、全て平仮名で書け。

問二 本文中に①かがせん②とあるが、どういう意味か。最も適当なものを、次の1～4から一つ選び、番号を書け。

- 1 どうよけようか。 2 どうしようもない。 3 どうにもしない。 4 どうしたらよいか。

問三 本文中に②わづらひとあるが、その意味として最も適当なものを、次の1～4から一つ選び、番号を書け。

- 1 負傷 2 支障 3 不満 4 不足

問四 本文中の人感じ合へりけりは「人々は感心しあった」という意味であるが、何に感心したのか。最も適当なものを、次の1～4から一つ選び、番号を書け。

- 1 おがくずを運び出すことを予測し、車を準備していた入道の思慮深さ。  
2 蹴鞫をするには砂よりもおがくずが適していると見抜いた入道の判断力。  
3 泥土だけでなくおがくずをまくことで安全面を確保した入道の発想。  
4 いざという時のために日頃からおがくずを集めていた入道の心掛け。

問五 筆者の考えとして最も適当なものを、次の1～4から一つ選び、番号を書け。

- 1 一見無駄に思えるものでも、使い方によっては役に立つことがあるということ。  
2 何事においても常に準備を怠らない姿勢が人々から高く評価されるということ。  
3 様々なことに対する知識が足りないと、その評価を誤ってしまうということ。  
4 時代が移り変われば、同じ物事に対しても見方が変わってしまうということ。

## 四

大泉さんの学校では交流都市の生徒と交流会を開催することになった。そこでA「対面での会議」、B「ビデオ会議」という二つの提案があった。

【資料1】は「対面の会議」の時に「マスクを着けると変わることがあると思う点」に関する調査結果であり、【資料2】は「ビデオ通話やウェブ会議等で気を付けていること」に関する調査結果である。これらを踏まえてあなたならどちらの方法で交流会を開催するか、次の条件1から条件4に従い作文せよ。

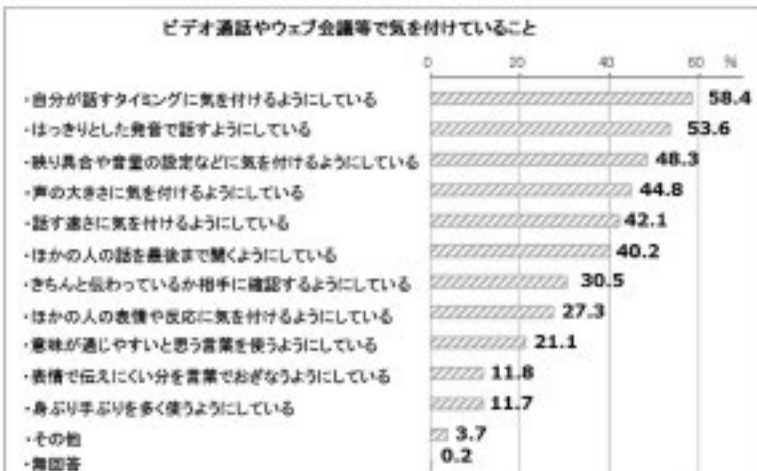
〈条件〉

- 1 文章は二段落構成とする。
- 2 第一段落には、A、Bのそれぞれの良さに触れた上で、どちらの案を選ぶか、あなたの考えを書くこと。
- 3 第二段落には、第一段落に書いたことを踏まえ、Aを選択した場合には【資料1】を、Bを選択した場合には【資料2】を参考にしながら、それぞれの交流会で気を付けることをあなたが体験したり、見聞したりしたことを交えて書くこと。
- 4 題名と氏名は書かず、原稿用紙の正しい使い方に従い、七行以上九行以内で書くこと。ただし、文の数は問わない。

【資料1】



【資料2】



(文化庁 「令和二年度 国語に関する世論調査」により作成)